

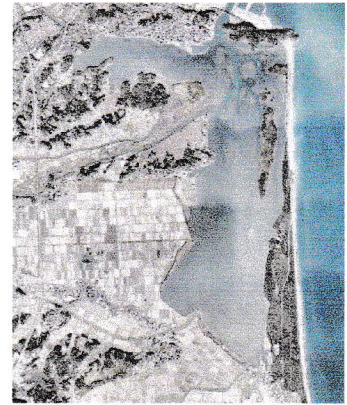
さあ！松川浦の散策・探検の始まりだよ

【ところで、松川浦って何？】

一言で言えば潟湖（せきこ）です。潟湖とは、砂州（さす）などにより外海と切り離されてできた浅い湖のことで、ラグーンともいうそうです。

松川浦は東西約3キロメートル、南北約5キロメートル、周囲約20キロメートル、面積は約6平方キロメートルの南北に細長い潟湖だ。

松川浦と外海を往来する水路は、かつては鵜の尾岬のすぐ南側にあった飛鳥湊（あすかみなと）だったそうです。今から約100年前の明治43年（1910）、湾の北側、尾浜から鵜の尾岬へと連なる岩を掘削して人工の水路（幅約80メートル）を開いたそうです。以来、この水路が湾の出入り口となっています。

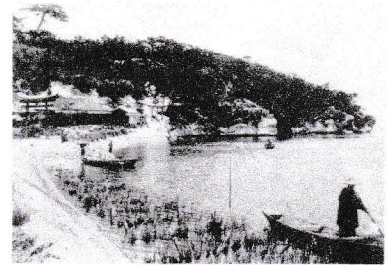


（松川浦の航空写真）

潟湖は約6000年前の縄文時代に、海水面の上昇によって海岸に大小の湾や入江が作られたそうで、松川浦付近一帯も大きな入り江になっていたようです。やがて海水が徐々に引いていき、激しい波や潮のはたらきで砂州ができ、その砂州が長い年月をかけて入江と海を隔て、約3000年前の縄文時代後期には今の松川浦の原型ができたと考えられているそうです。

同時に、宇多川、小泉川などの河川から多くの土砂と真水が浦の中に流れ込んだことで干潟ができ、塩分濃度の低い汽水域に変化したと考えられているそうです。

約6000年前の相馬地方の海面は現在より約3メートル高く、今の海岸線より4キロメートルも内陸まで海水が入っていたそうです。中野や日下石も海の中だったそうですよ。



（明治中期の飛鳥湊）

（右端が松川浦から外海への出入り口）

【旧松川集落の移住】

松川大橋を渡って鵜の尾岬のトンネルを抜けた右側に集落があったそうです。鵜の尾岬の松川集落は約500年前につくられたといわれています。昭和に入ってから40世帯ほどが暮らしていたそうで、郵便局、公会堂、小学校の分校などもあったそうです。

昭和18年（1943）5月、陸軍の実弾射撃場建設計画のため、国から移住命令が出され、旧松川集落は軍用地として強制収容されました。30余戸が現在の松川地区に強制移転したそうです。

このとき、松川夕顔観音堂を船越観音堂境内に移転したそうです。戦時下で男の人がいなかったため、年寄りや女の人たちで観音堂の建物を解体し、小舟に載せて尾浜字船越に運び、新たな本堂を建てたそうですよ。



（夕顔観音堂）

夕顔観音は宇多郷三十三観音の1番目の札所となっています。